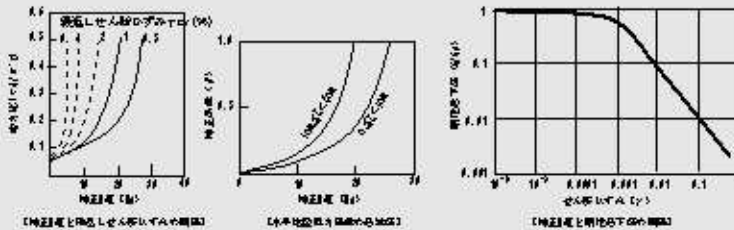
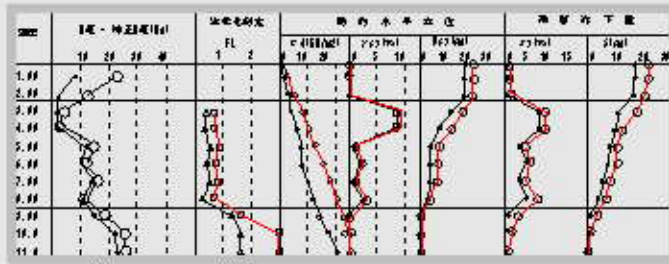


# 液状化判定 (建築)

液状化判定・せん断変形による動的地盤変位 (水平、鉛直) の解析ができます！

簡易判定 及び 簡易な応答スペクトル解析

## 液状化判定/動的水平変位/残留沈下量



【中地震動・大地震動】

地表震動速度の選定 ( $\alpha_{max}$ )

等価せん断返しせん断定数力の算出 ( $\tau_d/d'z$ )

液状化抵抗比の算出 ( $r_1/d'z$ )

( 隣界せん断ひずみ 5%)

液状化の判定

$$FL = |r_1/d'z| / |\tau_d/d'z|$$

動的水平変位

Dcy

(  $\gamma_{cy} = 5\%$  )

残留沈下量

S

( 隣界沈下 0.7%)

建築基礎シリーズに連動



□液状化による土質定数の減衰  
□基礎下の沈下解析 (即時・圧密・動的流動変位)

### 【機能の概要】

- 補正 N 値と液状化抵抗、動的せん断ひずみの関係から簡易に液状化判定・動的地盤変位を算定します。
- 表層地盤を等価せん断型質点モデルに置換し、簡易な応答スペクトル解析により液状化判定及び地震時地盤変位 (水平変位・鉛直変位) を算定します。
- 地震時の地盤変位は、「補正 N 値と繰返しせん断ひずみの関係」または「剛性低下率  $G/G_0$  を考慮」した方法の 2 つから算出することができます。
- 液状化低減係数 ( $\beta$ ) は、「旧基準 1988 改定」または「新基準 2001 年 10 月」から算定できます。液状化判定結果は「改良地盤の設計」等の建築基礎シリーズ製品に連動します。
- 出力書類は、結果一覧・詳細出力の表形式で出力されます。
- 検討ケースは、最大 6 個の地盤データの大地震時・大地震時を同時計算することができます。

### 【適用基準】

- 建築基礎構造設計指針 (2001年10月) 日本建築学会
- 建築基礎構造設計指針 (1988改定) 日本建築学会

※MightyExcelシリーズ全製品に「連番設定」機能が付いています。

連番設定とは、出力書類の章・節・項の番号振りを編集する機能です。

\* 記載価格には消費税が含まれておりません。

(株)ネオセルコ システム開発部

広島市東区福田一丁目 3 0 4 - 3

TEL : 082-899-8891 FAX082-899-5901